



どの子ども 伸びる 学びの九段小 ウェルビーイングの推進

- 1 カリキュラム・マネジメントの推進
- 2 学習指導の充実とより正確で丁寧な評価
- 3 九段ブランド（本校のよさと伝統）の構築
- 4 人的支援の有効活用
- 5 プラチナ休暇の取得

千代田区立九段小学校長 難波 明夫

本日のプレゼンテーションの内容

1 目指す学校像 児童像

Kindness 思いやり

Union 団結

Development 発展

Activity 活発

Noble 上品な



2 基本方針

3 国際理解教育の推進と グローバル人材の育成

KUDAN elementary school

4 期待される成果



1-(1) 目指す学校像

- 子ども一人一人が
安心安全に過ごす学校
- 子ども一人一人が
学力と体力を身に付ける学校
- 地域と保護者から信頼される学校
- 組織の力で課題解決を図る学校
- 教職員が互いに学び合い
高め合う学校



1-(2) 目指す児童像

- 自ら学び 考え 判断し表現できる子
- 友達と関わりながら学ぶ子
- 自他の生命を尊重し思いやりのある子
- 進んで運動し健康に
親しむことができる子
- 学校や地域を愛し
他者と豊かに関わる子



1-(3) 目指す教師像

○公教育を担う教師の誇りと自覚
研ぎ澄まされた人権感覚を有する教師

○愛情と熱意にあふれ
常に児童理解に努める教師

○高い専門性と豊かな人間性を
備えた学び続ける教師



2 基本方針 (1) 進んで学ぶ子

○分かる喜びとできる楽しさを実感する質の高い学び

- ・九段スタイルの実践(板書計画とノート指導、相互交流、ふりかえり)
- ・思考力、判断力、表現力の向上を重視した授業

○対話的・主体的で深い学びに向けた授業改善

- ・教科横断型で探究的な学習(グローバル人材の育成)
- ・個別最適な学びとタブレットの効果的な利活用

★九段スタイル～学習意欲の向上と授業規律の確立～

New Kudan style

「学びに向かう力」と「考え」「広げ」「深める」授業づくりのために5つのstyleを実践しています。

Style 1

学習の進め方

学習の過程をとおして自分の考えを深めていく。

課題把握

つかむ

学習のめあての理解し学習の見通しを立てる。

自力解決

考える

資料を見たり調べたりして、自分の考えをもつ。

検討

広げる

クラスのみならず学び合う。

評価

まとめる

分かったことをまとめる考えの変容に気付く。



Style 2

板書

45分間の思考の過程がわかる板書計画をたて、子どもの「考える」「広げる」を促す。

つかむ

めあて
本時の学習を端的に表すめあてを設定し、板書する。
(キーワードには波線を引くなどしてめあてを明確にする)
問題
学習問題を提示する。

考える

やり方
自力解決を図るため、資料の調べ方や一人で考えるための手だてを提示する。

広げる

みんなで話し合う
子供たちの考えを提示する際には、ミニホワイトボードやタブレット等によるノートの提示を活用する。

まとめる

わかったこと まとめる
本時の学習に対するまとめを板書する。
たしかめ問題
類題を出し、めあてへの理解を確認する。
学習の感想
・話し合いで考えたこと
・学習に生かしたいこと
・友達のよかったところ
・自分の考えが変わったところ



Style 3

相互交流

検討場面では、3つの相互交流を意識的に使い分ける。

Style A



ペアで話し合い
考えたことをさっとペアで話し合うことで、短時間で考えを交流する。

Style B



グループでの話し合い
様々な考えを伝え合うことで自分の考えを広げたり深めたりする。

Style C



全体での話し合い
個人やグループの考えを全体に広げることによって学びを共有する。

Style 4

ノート

見開き2ページを基本とし、「問題解決の過程や振り返り」がわかるようにする。

ノートの取り方

めあて
学習の見通しを立てるめあてを書き、色線で囲む。
学習課題
「解決方法」として、自分の考えの発表から気付いたり分かったことを書き込んでいく。
まとめ
本時のめあてやに対する答えや分かったことを書く。
学習の感想
本時を振り返るために、学習の感想を書く。

つかむ → 考える → 広げる → まとめる

★ノート作成のお約束

色分けは赤青鉛筆で 枠囲みや線は定規で

Style 5

意欲的に学ぶための学びのスタンダード

学校で

- 授業の始めと終わりにあいさつをします
- よい姿勢で座ります
- 「声のものさし」に合わせた大きさを話します
- 最後まで静かに話を聴きます
- 字を正しいに書きます
- 名前を呼ばれたら「はい」と返事をします

家庭で

- 必要な学習用具は前日までに用意します
- 宿題や家庭学習に取り組みます



正しいしせい



意欲的主体的に学ぶためのスタンダード
確実に身につけさせたい学習習慣の根幹となるもの

2 基本方針 (2) 仲よく 助け合う子

○安心安全な居場所づくり

- ・学びのスタンダードの理解と確実な指導
- ・安心して発表できる人間関係の構築

○豊かな人間関係の醸成

- ・地域の教育資源と人材の活用
- ・「ちよだ楽」の取組

○いじめをしない・させない・ゆるさない

- ・差別と偏見を許さない一貫した指導
- ・未然防止、早期発見、早期対応、早期解決
- ・のびのびルームの利用

2 基本方針 (3) 心も体もたくましい子

○運動に親しみ 運動を楽しむ活動と授業

- ・「分かる」「できる」「楽しい」体育科指導の授業改善(教科担任制の効果検証)

○体育健康教育の推進

- ・生活リズムチェックカードの実施と健康行動への自立

○危険の予測と危機回避能力の育成

- ・防災教育と安全教育の推進
- ・感染症に対する正しい理解と実践



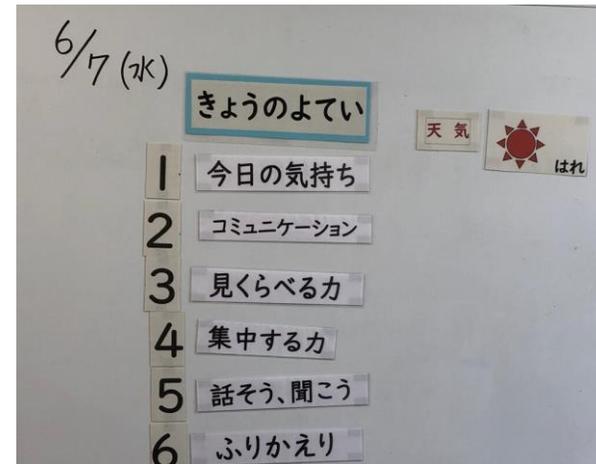
2 基本方針 ※ 特別支援教育について

○誰もが「分かる」「できる」「楽しい」と実感

- ・困り感の解消と合理的配慮、指導方法等の理解啓発
- ・保護者、関係諸機関との連携 ・校内委員会の充実
- ・教育支援シートの活用と適宜の見直し。

○特別支援教室での指導の充実

- ・一人一人の特性や発達課題に応じた指導の充実
- ・個別指導と小集団指導の効果的活用
- ・特別支援学校との連携(コーディネーターの活用)



3 国際理解教育の推進とグローバル人材の育成

【教科横断型の学習を充実を図ります】

- (1) 国際理解教育 ～英語教育～
- (2) 伝統文化の推進 ～俳句づくり～
- (3) 体力向上 ～キッズアスレティックス～
- (4) 地域の歴史と伝統 ～山王祭～
- (5) 環境教育の推進 ～ビオトープ～

3 国際理解教育の推進「英語教育」

幼稚園から高校の学校教育を通して育む力

学校教育全体



※三つの力をバランスよく育みます。

幼稚園ではその基礎を育成

- ・**知識及び技能の基礎**
豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする。
- ・**思考力、判断力、表現力などの基礎**
気付いたことや、できるようになったことなどを
使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現
したりする。
- ・**学びに向かう力、人間性など**
心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活
を営もうとする。

※遊びを通して三つの力を一体的に育みます。

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

3 国際理解教育の推進「英語教育」

【事業名】 えいごでなかよし

○ ねらい

歌やゲームなどの活動を通じて、英語に親しみ、興味や関心を高める。

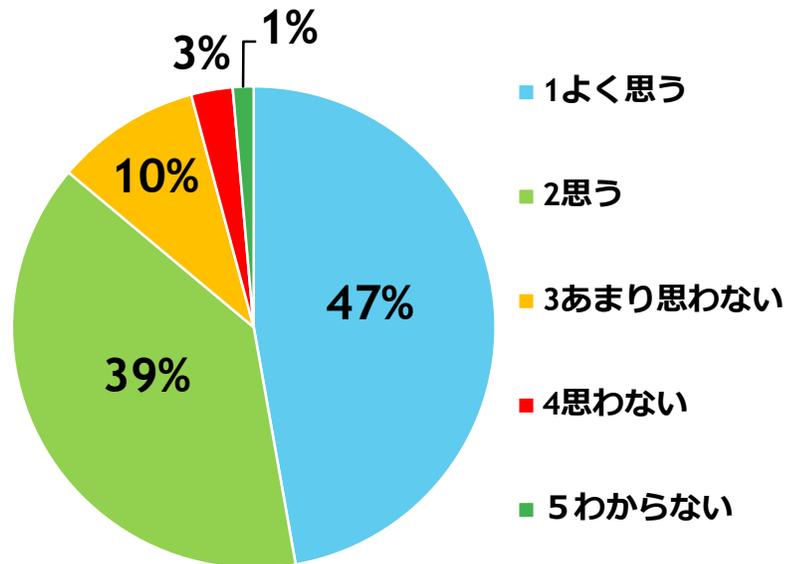
豊かな人間関係と就学前プログラムの充実を図る。

○ 活動内容

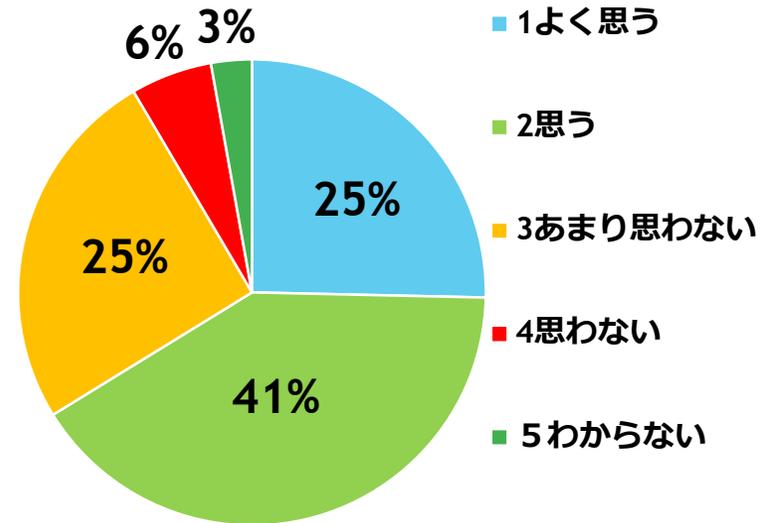
- ・ 週1回 園児（3.4.5歳児）とALTの交流遊び
- ・ 週1回または月1回 5. 6年児童と5歳児の交流遊び
- ・ 3学期 1年児童と4歳児の交流遊び

3 国際理解教育の推進「英語教育」

Q：英語（話す・聞く）を
もっとできるようになり
たいですか

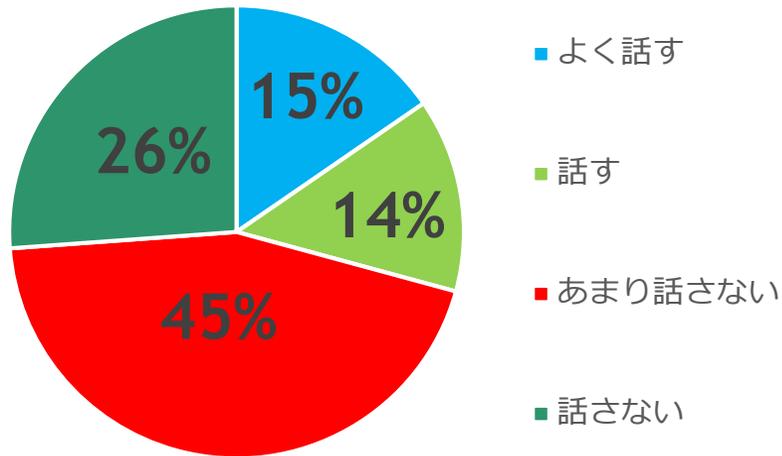


Q：外国のことをもっと知り
たいと思いますか

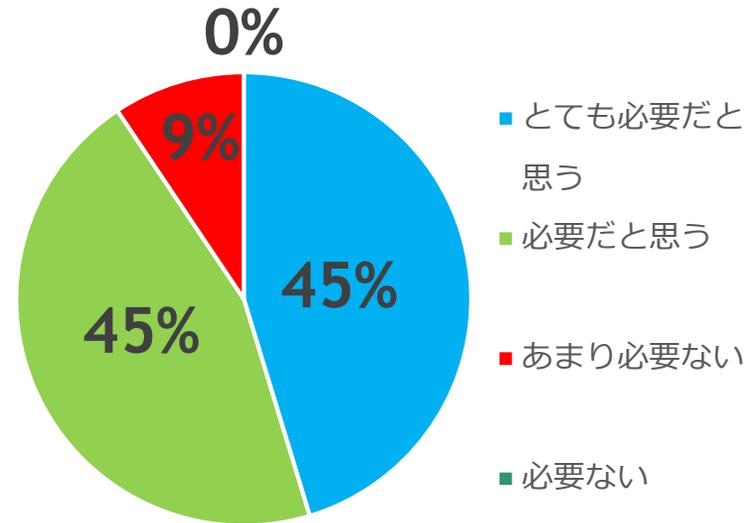


3 国際理解教育の推進「英語教育」

Q：学校以外授業（塾・英会話教室など）で英語を話す機会がありますか。



Q：将来の仕事や日常生活に英語が必要だと思いますか。



3 国際理解教育の推進「英語教育」

○ ねらい

- ▶ ネイティブスピーカーとの交流から、国際感覚を養い、コミュニケーションの基礎を養う。

○ 活動内容

- ・ 対象学年 5年 6年
- ・ 時期 5年2月 6年11月
- ・ 場所 東京グローバルゲートウェイ



3 国際理解教育の推進 ～ 伝統文化 ～

○ ねらい

俳句の学習を通じて、日本の伝統文化に慣れ、親しみ、句会を通じて豊かな人間関係を築く。

○ 活動内容

- ・ 対象学年 全学年
- ・ 時期 通年
- ・ 講師 小山正見 阿部郁恵
本校教員



4 期待される成果

- (1) 学校生活が楽しい児童 90%
- (2) 授業がよく分かる (よくできる)
分かる (できる) 児童 90%
- (3) 人と関わるのが楽しい児童 90%
- (4) 家庭と地域からの満足度 90%
- (5) 教員の満足度 90%
(専門性の向上と働き方改革の推進)